週間展望・回顧（ドル、ユーロ、円）

September 20, 2024

ドル円、重要イベント通過で底堅い

◆ドル円、FOMC はタカ派寄りの利下げだったとの指摘も
◆ドル円、スピード調整に対する反動から底堅い
◆ユーロドル、ECB の金利見通しは依然として不透明感強い

予想レンジ
ドル円　　141.00-147.00 円
ユーロドル　1.0950-1.1200 ドル

9 月 23 日週の展望

ドル円は、日米金融イベントを通過して、7 月前半からのスピード調整に対する反動から底堅い展開が想定される。17-18 日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では 0.50%の利下げが行われ、残り年内 2 回の会合でさらに 0.50%引き下げられる見通しが示されたが、0.25%利下げを見込む意見と拮抗していることも判明。今後の経済データ次第では利下げ期待が大きく変化することが窺われた。また、金利の最終到達地点（ターミナルレート）とされている中立金利が前回 6 月時の 2.8%から 2.9%に引き上げられた。わずかに 0.1%の上方修正ながらも 2018 年以来の高水準であり、現在の FF 金利誘導目標の中間値（4.875%）から中立金利に到達するために必要な利下げ幅が、理論上減ったことになる。これらを考慮すると、今回は大幅な利下げを実施したにもかかわらず、市場では「タカ派寄りの利下げだった」との指摘もあり、来週以降、ドルを積極的に売ることは難しくなりそうだ。

来週は 23 日に 9 月購買担当者景気指数（PMI）速報値、24 日に 9 月消費者信頼感指数、25 日に 8 月新築住宅販売件数、26 日に 4-6 月期四半期実質国内総生産（GDP）確定値や 8 月耐久財受注、27 日に 8 月個人消費支出（PCE）の発表が予定されている。

ドル円は 7 月前半の 161 円台後半から 9 月半ばの 139 円台半ばまで、わずか 2 カ月余りで 22 円以上の調整を行ったが、その背景となったのは米大幅利下げと日銀の追加利上げ期待だった。日米金融イベントを通過した来週は、過度に進んだ調整に対する反動からドル円には買い戻しの余地がありそうだ。

ユーロドルは、過度の米利下げ期待の後退から上値の重い動きとなりそうだ。今週は欧州中央銀行（ECB）高官からの発言として、ビルロワドガロー仏中銀総裁やカザークス・ラトビア中銀総裁から「引き続き利下げすべき」とのハト派的な見解が示された一方で、シムカス・リトアニア中銀総裁からは「10 月に利下げする可能性は非常に小さい」との発言があったが、依然として金利見通しについては不透明感が強い。

9 月 16 日週の回顧

ドル円は、週明けの欧州序盤に一時 139.58 円と昨年 7 月 28 日以来の安値を付けたが、その後は徐々に下値を切り上げる展開に。8 月米小売売上高などが予想を上回ったことを支えに 142 円台半ばまで切り返した。FOMC 後に 0.50%の利下げが決定すると 140.45 円まで下げたが、FRB 議長が利下げに慎重な発言をすると反発。翌 19 日には一時 143.95 円まで買い上げられた。

ユーロドルは週明けから 1.10 ドル台後半から 1.11 ドル台半ばまで水準を切り上げた。FOMC 直後に 1.1189 ドルまで上昇後 1.1069 ドルまで失速も、再び 1.11 ドル台後半まで持ち直した。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.